

新成人おめでとう



生涯学習だより

ふれあい

いかた

毎月第2日曜日は「家庭の日」です。

2月のテーマ“明るい郷土をつくろう”

(実践方法)

- 郷土の史跡探訪、文化財めぐりなどを行って、家や郷土の歴史や文化について話し合おう。
- 郷土芸能や文化の伝承活動に参加しよう。

平成20年
2月1日発行

No.34

2月号

平成20年 伊方町 成人式

1月3日(木)平成20年伊方町成人式が生涯学習センターで行われました。今年の成人該当者は昭和62年4月2日から昭和63年4月1日までに生まれた177人、そのうち136名が新春にふさわしい鮮やかな振袖や真新しいスーツ姿の新成人が式典に出席し、おとなになったことを自覚し、自らの努力で人生を切り拓こうとする新成人を祝い励ますために「成人式典」及び「茶話会」が開催されました。

式典では、山下町長から、主催者挨拶があり、「成人としての義務と権利を与えられると同時に、自らの判断と責任において行動することが求められることになりました。社会がどのように変化しようとして、周りに流されず、ゆるぎない信念をもって行動し、自分の人生は自分で切り開いて頂きたいと思えます。」と励ましの言葉を頂きました。

続いて成人者一人ひとりから二十歳になったの抱負を一言づつ発表し、引き続き山下町長より記念品が新成人を代表して宇都宮千裕さん(湊浦)へ贈呈されました。

中村町議会議長をはじめ来賓の方々からもお祝いの言葉が述べられました。

新成人を代表して阿部和馬さん(串)が謝辞を、今田景子さん(大久)が二十歳の抱負を、自分にしかできない自分の使命を開花させるために、これからも自分自身を磨いていきたいと思えます。」と発表しました。

式典終了後は、記念写真の撮影さらに、茶話会を開催し同級生との久しぶりの再会に友人と歓談したりデジカメで友人と撮影したりして晴れやかな記念すべき成人式のひとときを過ごしていました。



おとなへの第1歩 輝く未来へ



新春書き初め教室

町見公民館

新たな年を迎え一年の事始として一年間の習い事がうまくいくように、大事なことは年の初めから取り組むという気持ちを持つように、また町見地区の小学生と地域住民との交流を目的として、1月5日(土)町見公民館において「書き初め教室」を開催しました。

講師は鳥津地区の鳥津松三郎先生で、参加した30名(児童22名・一般8名)の学級生は講師に指導を受けながら、また講師に用意していただいたお手本を参考に



真剣に集中して筆を走らせていました。

この書き初め教室は町見公民館で初めて取り入れたもので、九町小学校と二見小学校の児童の交流に加え、地域の方との交流も考えて鳥津自治公民館が実施している書画教室の生徒さんにも参加をいただきました。

この日の作品は、町見公民館のロビーや二見公民館まつりへ展示して紹介していきたいと考えていますので、ぜひ一度ご覧下さい。



平成二十年 壮年講座・新春交歓会

中央・町見公民館

1月6日(日)伊方町壮年会を対象とした壮年講座並びに、伊方町壮年会主催の新春交歓会が、町民会館において開催されました。

これは、町の中核層を担う壮年層を対象とした講座と合わせて、壮年会会員と町長、町議会議員、教育長が、町政に関する意見交換会及び、親睦会を毎年新春に行っている催しです。

今年の講座は、愛媛県在宅介護研修センターの研修室長伊東寛先生を講師に招き、「介護予防とボランティア活動」について講話をお願いしました。まず初めに、介護予防としてのどのような生活をしていったらよいのか等の話を聞きました。その後に関心もあり、認知症を防ぐためのヒントを聞き、ボランティアや普段の生活の中で、体や頭を動かしていることが大



事と学びました。実際に受講生を対象に遊び感覚でコミュニケーションの取り方を体験し、最後に二人で向かい合わせに座って、簡単な介護のコツを実践して閉会しました。

また、新春交歓会では、町長、議長、教育長による年頭のあいさつの後、意見交換が行われました。

内容については、予めお願いしておいた亀ヶ池温泉利用状況、女子岬・堂々山公園等の管理状況、風力発電(風車)完成と問題の3点の他、その他において3子以降の助成金、町営住宅建設、メロディ駅伝の時期、大川の除草作業、川永田地区の荷揚げ場の問題等の質問に対し、町理事者からの説明と大変活発な意見交換が行われました。

なお、壮年講座については愛媛ボランティアネットワーク(<http://nv.pref.ehime.jp/>)にも掲載されております。



新春書初め大会

瀬戸公民館

1月7日(月)毎年恒例になっている瀬戸地域新春書初め大会を、4つの会場(三机・塩成・川之浜・大久)で、午前と午後2部の別れて実施しました。

73名の児童の参加の中、講師に結城八郎先生、井上千代先生を招き、それぞれ入賞者は次のとおりです。

小学1年生の部

- 金賞 山本涼太
- 銀賞 伊藤 優
- 銅賞 渡邊 諒 山本杏海

小学2年生の部

- 金賞 三好泰生
- 銀賞 井上春賀
- 銅賞 井上 巧 村上真帆

小学3年生の部

- 金賞 高月大輔
- 銀賞 梶原菜央
- 銅賞 竹本夏奈



小学4年生の部

- 金賞 福島桃香
- 銀賞 濱本愛香
- 銅賞 松森龍也

小学5年生の部

- 金賞 阿部祐馬
- 銀賞 井上美紀
- 銅賞 新見花歩

小学6年生の部

- 金賞 阿部治貴
 - 銀賞 清水ひかり
 - 銅賞 井上笑吏奈
- 井上友美

学年ごとの課題の文字に挑戦しました。小学1・2年生は学校での習字の時間がないことから、初めて挑戦する子もいました。筆を構えた子どもたちの表情は真剣で、先生の丁寧な指導のもと、短時間で立派な作品を仕上げていきました。後日、出来上がった作品を講師の先生方に審査して頂きました。

出来上がった作品は、2月9日まで瀬戸町民センターに掲示しております。ぜひ、子供たちの作品を見に来て下さい。

走って、歩いて、書いて

新春健康マラソン&ウォーキング大会と

新春書き初め大会

三崎公民館

初春の清々しい気分で、走り初め、歩き初め、書き初めをしよう、1月3日に恒例の健康マラソン大会、1月4日に書き初め大会を行いました。

今回の健康マラソンは、内容を一新し10kmコースやウォーキングコースを新設したところ、大人の参加者が増し、ここ近年で最も多い116名の人数で賑わいました。ウォーキング部門に出場した今回参加者中最年長の76才の方は、新春の歩き初めでとても清々しい気分になったとおっしゃっていました。また来年も元気に参加してください。また昨年

から始めた



新春にみんなで、歩き初め！



新春の清々しい気分で、書き初め！

書き初め大会も小学生24名の参加があり、地元二名津地区の五島義長先生に指導して頂きました。この日初めて筆を握る小学校1年生の参加もあり、みんな新春の気持ちのような真っ白な半紙に向かい、何度も何度も書き直しながら納得のいく作品作りに没頭していました。みんなの力作は、1月末まで三崎総合支所のロビーに展示しています。是非ご覧下さい。



学校通信



伝統・文化体験活動

伊方小学校

12月26日、伊方町青少年健全育成事業の一環として「伝統・文化体験活動」を行いました。ふるさと伊方に伝わる伝統や文化について、見たり直接体験したりすることを通して、地域のよさを知り、ふるさとを愛する心を育てようというねらいです。5・6年生が、いももち・かんころ作りのおやつ班、糸巻き車作りのおもちゃ班、川永田、河内探索の探索班に分かれ活動に取り組みました。

おやつ班は、地域の方の指導により、いももち、かんころ作りに取り組みました。昔のおやつ作りは結構手間がかかるが、食べてみると思っていたよりもおいしかったという感想が聞かれました。

おもちゃ班は、身近な材料で、おもしろいおもちゃがでることに子ども達は大喜びでした。材料を変えたり、輪ゴムの巻き方を変えたりと、自分でいろいろと工夫して遊ぶ楽しみを知ることができたようです。

探索班は、町見郷土館の方の指導の下、伊方から保内へ続く昔の街道を辿ったり、湊浦の旧名「佐瀬部」の名が刻まれた石塔や各地区の太子堂を巡ったりしました。町並みを歩いてみると、伊方にはまだまだいろいろな文化財が眠っているように思えました。

国際化といわれる時代ですが、自分の足元を見つめることも大切です。実際に見たり、体験したりしなければわからないこともたくさんあります。今後、ふるさとを大切に育てる子どもを育てる活動を推進していきたいと思えます。



朝食の大切さについて

瀬戸中学校

小児生活習慣病予防対策事業の一つとして1年生を対象に朝食の大切さについて勉強しました。

午前中は、瀬戸保健センターの岩村千恵さんに単朝食メニュー5品を教えていただきました。生徒たちは、男女混合で先生も加わり4班にわかれました。生徒たちの感想は、「ま

た、料理教室をしたい。」「完成するのは遅かったけど、ちゃんと自分たちの手で作れたので、良かった。」などです。

午後からは、朝食の大切さについて三机小学校栄養教諭の林佳代先生の授業でした。朝食をとると体、頭、排便の3つのスイッチが入ることを学習しました。ま

た、脳が目覚め、体温が上がりが、排便が促されることわかり、改めて朝食の重要性を理解したようです。朝食をとるための生活のかたについては早寝早起きをする。夜遅くに食べない。朝食前に少し体を動かす。以上3つの点について考えました。

今後中学校、家庭、地域とも連携を図りながら、食育について学ぶ機会を増やしていきたいと思えます。

ブクブクキラーでフッ素洗口

二見小学校

昨年度、愛媛県フッ素洗口普及事業に応募したところ、モデル校(県内五校)に指定され、今年度九月からフッ素洗口が始まりました。

六月：学校歯科医宇都宮先生による講話「元気は口から」を行いました。クイズや口の体操等、児童は楽しみながら学習することができました。その後、毎日給食前に口の体操を実施していきます。

七月：保護者・教職員への説明会とフッ素洗口を行

い、共通理解を図りました。

九月：フッ素洗口実施の前に、児童への説明と練習を行いました。音楽「ブクブクキラー」に合わせて、教職員がフッ素洗口の様子を見せた後、児童が練習をしました。

十一月：保護者参観を設け、フッ素洗口の様子を見ていただきました。

このように、学校歯科医宇都宮先生をはじ

め関係機関の協力を得て、「歯みがき基本でフッ素洗口」を実施しています。



見遊館より

マジックハンドを作りました!

2月16日(土) 午後2時から、マジックハンドを作ります!

参加される方は当日時間までに受付にお越し下さい。

【お問い合わせ】

伊方町生涯学習センター内 見遊館 38-1020

映画上映会のご案内

2月9日(土) 見遊館にて映画上映会を行います。室内が狭く、人数に限りがありますので早めにお越し下さい。

場 所 見遊館内集会室

作 品 名 わんわん物語

上 映 時 間 1回目 10:00~11:10

2回目 15:00~16:10

【お問い合わせ】

伊方町生涯学習センター内 見遊館 38-1020

伊方スポーツセンターより

冬こそ温水プールにきてみませんか?

それには理由があるんです!

①冬はプールが空いています。

- 1)利用者が夏場の3分の1です。
- 2)12時と20時が、最も空いています。
- 3)広々とコースを泳いだり歩いたりできます。



②冬でもプールは、暖かい

- 1)水温32℃で非常に暖かく感じます。
- 2)室温35℃で温室になってます。
- 3)プール内の採暖室は50℃に設定しています。

③冬のプールは、水がきれい。

- 1)塩素が平均0.8mg/1で、必ず基準値をクリア
- 2)水質が中性で身体に優しいです。
- 3)濁度が0.5度以下で25m先の壁が見えます。

④冬は外が寒く、運動不足になりやすい。

- 1)寒いと身体が脂肪を蓄えようと自然に働きます。
- 2)寒いと健康の基本である有酸素運動(ウォーキングetc)が不足しがちになるので、1日に摂取する過剰なカロリーを消費できない(約300kcal)
- 3)1日の歩数を測ってみてください。激減してませんか?

⑤プールは歩いても泳いでも体にいいことがあります。

- 1)脂肪燃焼、腰痛、肩こり、膝痛、疲労回復に効果有り

● 詳しいお問い合わせは、下記にご連絡下さい。

伊方町役場(生涯学習課) ☎38-2661

伊方スポーツセンター ☎38-1100、☎38-0776

ライフアップ講座のご案内(第3回)

～韓流クッキング

かんたん!おいしい!韓国の味～

韓国料理は野菜や香辛料をうまく用いることで、健康食として最近関心を集めています。家庭で手軽にできる韓流料理を作ります。

■日 時 平成20年2月16日(土)
13:30~16:00

■場 所 伊方町中央公民館 3階調理室

■内 容 ▽調理実習
(チヂミ・豚肉の炒め物・わかめスープ・松の実粥・なつめ茶)

▽松山・平澤友好協会のお話

■講 師 峰 弘子さん(松山東雲短期大学教授)

■定 員 20名

■受 講 料 700円(材料代・当日徴収します)

■持 参 物 エプロン

■申込方法 2月8日(金)までに住所・氏名・電話番号を生涯学習課へご連絡ください。
TEL 38-2661 FAX 38-1179

平成19年度 女性団体連絡会主催講演会

◇日 時 平成20年2月5日(火) 13:30~15:50

◇場 所 伊方町生涯学習センター 5階多目的ホール

◇講 師 ふくだ 友子氏(人材育成アドバイザー)

◇演 題 「輝いてますか?あなた!

～笑いとお元気を届けます～

◇対 象 どなたでも参加できます。

◇受講料 無 料

◇申 込 前日までに生涯学習課へ

TEL 38-2661

FAX 38-1179



●講師プロフィール

大阪生まれ。浪花のカリスマ講師。

お笑いのパフォーマンス、ユニークな語り口調に会場はいつも大爆笑!勝ち気とアカンタレの同居人間。起業家として家庭人として、人生や子育て、教育問題、地域活性化など困難なことも笑いチャレンジ精神で体当たり。表現力豊かな楽しい講演は、老若男女を問わず大好評を博す。



図書館だより



今月の新刊

○子ども向け

- レモン/小池昌代 編、村上康成 画
- わすれんぼうのねこ モグ/ジュディス・カー 作、斎藤倫子 訳
- オツベルと象/宮沢賢治 作、荒井良二 絵
- おやおやどこかな?/エミール・ジャドゥール 作、石津ちひろ 訳
- かじりのがっこう/うるまですく さく
- わたしの/三浦太郎 作
- ヒトラーのはじめた「ゲーム」/アンドレア・ウォーレン 著、林田 康一 訳
- アントン/エリザベート・ツェラー 著、中村 智子 訳
- チームふたり/吉野万理子 作、宮尾和孝 絵
- さかなのなみだ/さかなクン 著
- 無愛想なアイドル/杉本りえ 作、加藤アカツキ 絵



○一般向け

- 厭犬伝/弘也英明 著
- 名将山中鹿之助/南原幹雄 著
- 月のうた/穂高明 著
- 消えずの行灯/菅田龍一 著
- 君空/美嘉 著
- 夢を与える/綿谷りさ 著
- カツラ美容室別室/山崎ナオコーラ 著
- ダイイング・アイ/東野吾吾 著
- ザ・シークレット/ロンダ・バーン 著、山川紘矢 ほか 訳
- 人間の関係/五木寛之 著
- 目覚めよと彼の呼ぶ声がする/石田衣良 著
- 萩本家・母は100歳のお嬢さま/萩本悦久 著
- ウェブ時代をゆく/梅田望夫 著
- 道路交通法改正Q & A/交通行政研究会 編
- 1時間走ればフルマラソンは完走できる/鍋倉賢治 著

利用案内

■開館日/火曜日～日曜日
午前9時30分～午後6時

■休館日/毎週月曜日(月曜日が祝日のときはその翌日も)
祝日・月末図書整理日・年末年始(12月29日から1月3日)・蔵書点検日

伊方町立図書館(伊方町生涯学習センター2階)
伊方町湊浦1992番地
TEL(0894)38-0607 FAX(0894)38-0617
瀬戸町民センター・三崎公民館にて図書の返却のみ可能。

ピップスおはなし会のご案内

2月のおはなし会は9日(土)・23日(土)
の午後2時から30分程度

■対象: 未就学児童および親子
小学校低学年

絵本の読み聞かせや紙芝居などをおはなしコーナーで行っています。
みんな、来てね!



2月 図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

●…休館日



2月の「佐田岬の自然スライド上映会」

2月27日(水)

入館無料

18:30～20:30 お気軽に!

テーマ「半島最高峰！
出石山は今」

常設展示のパネルが増えました♪



新田好や村上節太郎撮影の写真パネルが常設展示に加わりました。ありし日の風景に思いを馳せながら半島の歴史や文化がたどれます。

町見郷土館から

◆今月のきょうどかん◆

2008年 2月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

■—おやすみ □—夜スライド上映
休館日は都合により、変更する場合があります。

TEL・FAX 39-02241
(不在の場合)
38-2661 生涯学習課
開館時間 9:30～16:30
休館 月ほか

企画展速報!

まなびや*ちとせ

— 佐田岬半島の学校建築 —

2月17日(日)
より
開催!!

佐田岬民俗ノート

33

神崎探訪記

今回は神崎地区をいろいろ歩いてみました。

神崎の集落に入る手前の道路端、①サシノソキという場所には、巨大な石灯籠や大きな藁草履があります。草履のもう片方は②トースにあり、オオヒト様がヒトアシ(一跨ぎ)で歩いた跡で、そのとき袂の苔を払い落としたのが、③ソーズの大岩だというお話です!

集落には、神楽で有名な六社神社や、裏手の墓の神様で、耳の不自由な石が奉納されていきます。耳と百日咳の神様で、田部へ通じる旧道を入ったところにある⑤ホトケントには、大きな青石が建っており、穴の開いた石が奉納されています。



番匠鼻(2008年1月撮影)

な方が、オクマ(米)やシオ(海水)を汲んだサザエボク(サザエの殻)を持ってお参りするそうです。山上が平らな⑥ヒキデとのバンジョー(番匠鼻)は、昔は牧草地で牛が飼われていました。バンジョーは現在歩道も整備され、昔⑧タカデにあった石仏群が移されています。その先端に広がる奇観絶景は本当に見事!春の番匠祭りに子供相撲で盛り上がります。

取材協力

小川清美さん・神崎で
出会った皆さん

平成19年度 人権作文から

身近な人権問題

伊方中学校 三年 三好章仁さん

今まで人権について、いろいろな事を学んできました。小学生の時は、人権集会で話し合った事もあります。中学校の道徳や学活の時間では、いじめや差別の話を聞くたびに、そんなことはいけない事と考えてきました。

ところが最近、僕はどうやら人権を無視した発言をあちこちでしていることに気が付きました。「ばかやないん。」「きもっ。」「こんな言葉が何気なくどんどん出てしまってる時には言い過ぎかな?」と思った事もありましたが、これくらいみんなも言っている、とあまり気にしていませんでした。また、家族に対しても、最近は反抗期なのかもしれない。家族にいろいろと言われてイライラすること

があります。父に対してはまだよいのですが、母に対して、「うるさい」とか「そババア」など言いたい放題です。ぼくの中でこんな事はこれまで日常茶飯事となり、罪悪感のかけらもなくなってきました。

しかしある日、とうとう父がこんな僕に激怒しました。「誰か言いよるんやー!」いかげんにせー!」父のこの言葉に僕は、はっとしました。母には言っても父には絶対言わないこの言葉、この態度。僕の内面は、父より弱い存在である母に對する自分の弱さであり、同時に弱い者をいじめようとする僕の性質の表れだと気づきました。僕は考えさせられました。

今まで、人権問題とは、人権差別・男女差別・障害

者差別・部落差別のように大きな社会問題をいうものだと思っていました。自分とは少し離れたところにあるものだと感じていました。しかし、まさか、僕自身の内面という身近にそんな問題があるなんて思いもしませんでした。言われてみれば、これは立派な人権侵害なんだと気が付きました。そういう視点で学校生活を振り返ってみると、あちらこちらに「人権問題」が転がっています。誰も気付かず、誰もその問題を拾いあげようとせず、日常化している現実。傷ついても平気なふりをしてごまかしの笑顔でその場を流していく自分達。傷ついても相手の痛みを感じない、心のマヒした自分達。自分より「弱い」人を見つけ合い安心しているのです。「これくらい大丈夫、俺だけじゃない。みんなやってるし」という言い訳を隠れみのにし、人権を大切にしていない僕と同じ様な人がたくさんいます。相手の身体的な事に関わる言葉や、根も葉もない中傷的な言葉も耳にしますが、そ

れは間違いなくいじめや差別の表れなのです。でも、それをなんとなく許している自分達がいます。言葉は、時には、刃物のように相手の心を傷つけ、えぐる恐ろしい凶器にもなりうるのに…。

なによりも恐ろしいのは、それが意識されず、日常になりつつあることです。差別するものが自分の差別心に気付かず、自然体で差別するなんて。そんな事では、この世から差別やいじめは、決してなくならないのです。

一人一人がまず、しっかりと自分の中の「みくくい心」と向き合い、意識改革をしなければ、何も解決しないのです。

僕は今、やっと目が覚めました。人権問題は、遠い他人事ではなく、僕の心やみんなの心の中に潜んでいる身近な問題なのだ。だから今度こそ、本気で考えなくてはなりません。人権について、全ての人が気持ち良く暮らしていける世の中について。みんなと一緒に今度こそ本気で。

平成19年度 人権メッセージから

「いじめはいやだ」

佐田岬小学校 四年 居村美咲さん

一年生のときのこと。外に遊びに行こうとする時、くつが片一方だけなくなっているのです。しかたなくケンケンで運動場に出ました。「なんで、そんなことするの。」

思わずぼろりとなみだが、これだけがいじめられていたら、助けてあげます。だれにも言えなかったら、かわりに言ってあげます。だって、自分がいじめられたとき、なきたいほどぐちゃかったから。



第59回全国人権同和教育研究大会に参加して

瀬戸総合支所地域総務課長 藤 淵 昭 一

第59回全国人権同和教育研究大会が去る11月、石川県金沢市で開催された。

北陸地方で全同教が開催されたのは今回が初めてで、「であい、つながり、わかりあい、育てよう共に生きる人権文化 — 北陸の地石川から —」を大会テーマに、全国各地から約一万人が結集して盛大な大会であった。

石川県では同和教育に取り組む歴史も浅く、平成3年に県の同和教育研究協議会が結成され、この16年間取り組みを進めてきた。中でも特に①なかまづくりの取り組み②進路保障の取り組み③人権のまちづくり推進のための社会教育における同和教育の取り組みを重点に実施してきた。

全体会特別報告では、地元金沢市の中学校教諭が「2年1組、壁はない」と題して自らの体験を交えた報告があった。幼少期から自分の周囲にあった多くの壁を壊したり、乗り越えてきたのは小学校から大学まで様々な教育に出会い、少しずつ考え方が変わり、更にいじめや差別意識について人の心を変えられるのは教育だと悟ることができ、教育の役割は大変重要と感じていると述べられた。

「生活課題と啓発活動」の分科会では、「怪傑！講師団と人権教育、啓発活動」と題して徳島県吉野川市人権課から報告があった。

ここでは平成17年に講師団を結成。現在43名の市職員、教員、人推協役員、人権擁護委員等で構成し、講師としての資質向上を図る為毎月研修会を開き意見交換や模擬講演等を実施している。この講師団の役割は、市の人権研修会や地区人権集会での講師を勤め、また県内市町村からの要請にも出向いて講演も行っている。

講師団結成に至る背景には予算の削減があった。以前は著名な講師を県内外から招聘していたが、近年の予算削減で新たな方策を模索する中で、自前の講師を養成して対応することとなった。現在は県内外に「怪傑！講師団」の名が知られるまでになったとのことである。

今回、全同教大会に参加して各地の様々な活動を聴き、人権関係予算に限らず予算の削減は全国市町村同様の条件であり、その条件下で各種事業を維持発展させるには新たな創意と工夫が必要であることを感じさせられた。

伊方健康マラソン大会開催

2008年1月6日(日)伊方健康マラソン大会が、町見体育館をスタート地点として開催されました。

コースはA(1.8km)、B(2.5km)、C(4.0km)の3コースで行われ、この日集まった84名の参加者はピストルの合図とともに元気よく各コースに飛び出しました。

上位入賞を目指す者、マイペースで完走を目指す者、目標はそれぞれでしたが、全参加者が見事完走し、心地よい汗を流しました。



報 文 芸

俳句

野の花句会

野路菊はシヤネルに勝る香りあり
松田紋司朗

葉牡丹の渦に舞い込む初霰
松田紋司朗

除夜の鐘心の草をむしりとる
上口久志

上田文男

深井より汲みし若水温みあり
古田かずゑ

吹雪く戸を細目に賀状配らるる
岩見愛子

初座敷鴨居に咲く翁面
菊池あつ子

曾孫より可愛い手形の賀状かな
大沢昭子

昼灯し仕事始めの選果かな
林そで子

年の夜の闇を深めて風車の灯
川縁秀子

大盃の屠蘇で始まる第一歩
山田美恵子

大風車回る岬の年新た
岩井ふみえ

年賀状友との絆いつまでも
得能カツミ

あら玉の孫が被りし帽子かな
得能悦子

ささやかな夢膨らまず初暦
西山美津子

実千両野鳥むらがるレストラ
後町美智子

初雪に孫の笑いで暖いうち
千代

星狂い野老に優し寒の入り
城岡正治

瀬戸北斗の会

悔まるる事もあれこれ十二月
伊藤植美

冬晴や干し物多き大家族
井上奈津子

予定みな済ませて安堵日短か
佐々木順子

気に染まぬこと二つ三つ年詰
藤村富士子

まる
林そで子

さざなみ句会

須の宮に永久の軍神開戦忌
中谷段々子

平和でもなぜか気になる年始
丸川一彦

陸続く四国まわれば春の苑
松本光女

冬至の湯もらいし柚子の香り
宮部タミエ

病窓の海に向かいみかん山
今川キクエ

墓の上段畑熟れてみかん晴
今川又一

節分や水の染みゆく土の色
大谷勉

吹雪かかる前行く人のふり向
宮本マサ子

はにかみて見せぬ灯台椿山
石田満

箱根路にたすきつないでゴー
川口篤夫

除夜の鐘遠くに聞こえ天の川
木村運徳

海賊に因む大桶初詣
中村豊

冬木立ち天に向って時を待つ
小西紀代子

柿つるすこの家明るき子だく
阿部八重

入院ときめて年越そばの味
谷口ハナエ

岬端や海の見えないみかん山
山内須磨子

豆撒くや鬼の来そうな独りの
山内良子

水餅を浸けて小さな旅に出る
笹田吉子

加茂川に万の人出の太鼓台
中谷はる子

川流

伊方町川柳会

老いてなお方向音痴返り花
井上良江

老い易し老いて小犬と戯れ回
山崎美喜

足腰の痛む話で日向ほこ
篠川勝子

黄昏に二回転んで立ち上がる
池田君子

まとめ買い賞味期限に急かさ
松坂正子

「楽しかったね」孫の笑顔に疲
れとぶ
門田千枝

「偽」という字日本列島駆けめ
ぐる
上田幸香

「芸事は盗め」といわめ吟の道
木戸悦子

老農が小菊を活けて苦笑い
菊池真志江

だんだんよ他に言葉はなかり
上田文男

味覚の秋ダイエツト等は後ま
徳内郁

千鳥足丑三ツ時も死語となり
田村智子

手作りの凧が意外によく上が
り
篠川勝子

川柳会三崎支部

ああ伊方！安心・安全買いま
すか？
中谷段々子

初日かな平穩であれと手をあ
わす
山内徹

カラ元気心の内はわからない
石田満

家中の心そろいてはかどりぬ
葉月渚

入院ときめて年越そばの味
谷口ハナエ

気張りてもねばり続かぬ老い
の腹
中谷はる子